

令和3年3月16日

令和2年度東京都立調布南高等学校 学校運営連絡協議会

学校評価アンケートの分析

【評価基準について】

- ①：そう思う ②：ややそう思う ③：あまりそう思わない ④：そう思わない
①及び②を肯定的な意見として全体における割合を％で表示した。

備考 今年度のアンケートは、Forms 利用で実施した。

『生徒アンケート』 回答数 601（全学年） <12月1日付 在籍 711名>

今年度のアンケート回収率は、全学年合計 84.5 パーセントであった。

（昨年度 1 学年 99.2%、2 学年 99.2%、3 学年 100.0%）

<以下（ ）内は昨年度数値>

1. 校訓の理解

校訓に対する理解度は、60.2%(49.4%)であった。4年前の理解度が35.9%であったので、4年間で生徒（回答者）の6割が校訓を理解しているところまで定着してきた。しかし、校訓は学校の大きな柱であるため、『至誠 創造 力行』という言葉の浸透を図り、すべての生徒がわかるように努力が必要である。

2. 教育目標

教育目標に対する理解度は、35.4% (24.4%)であり、昨年と比べ、10ポイント上昇した。

本校の教育目標は

- ① 明朗にして、心豊かな人間を育てる。
- ② 知性ある、想像力豊かな人間を育てる。
- ③ 自主性のある、個性豊かな人間を育てる。

の3つであるが、学校がどんな生徒に育てたいかの定着にむけて、機会あるごとに提示してきた成果が見え始めている。

3. 教育課程

81.5%(68.3%)の生徒が学校での学習活動に肯定的である。8割の生徒が教育課程を肯定的に捉えており、昨年度より13ポイント、2年前より20ポイント以上の上昇となっている。この数値を8割程度の値とすることが今年度の学校経営上の課題であったが、一応達成した。

4. 学習機会の多様性

88.0%(85.3%)、昨年度から3ポイント上昇した。

今年度はコロナ禍で、勉強合宿は中止となったが、長期休業中の講習・補習など学校が用意する学習機会は充実していると、9割近くの生徒が捉えている。

5. 進路指導

90.2%(86.0%)の生徒が進路指導に満足しており、昨年度に比較して4ポイント上昇した。

6. 規範意識
97.8%(94.7%)と、ほぼ全員の生徒が規範意識を持って学校生活を送っていると考えている。
7. 学校行事・部活動の有用性
92.0%(81.3%)の生徒が、学校行事や部活動が学校生活の充実・発展につながっていると感じており、昨年度から10ポイント以上の上昇である。コロナ禍の中で、学校行事や部活動が十全に実施できなかった中で、その有用性を生徒自身が感じた結果と考えられる。
8. 防災教育・安全教育
生徒の86.5%(81.5%)が、学校が積極的に行っていると感じている。これも5ポイントの上昇となっている。
9. 相談機能
70.0%(63.0%) の生徒が相談機能に積極的な取り組みをしていると感じており、昨年から7ポイント以上増加した。相談機能の充実を8割の生徒が理解するように、広報に努める必要がある。
10. 情報発信
生徒の74.7%(56.7%)が積極的に情報を発信していると思っている。
昨年度から20ポイント近く上昇した。

『保護者アンケート』

アンケートの回収率は、全体で52.3%(82.1%)であった。PTAの一斉配信等でかなり回答を呼びかけたが、回収率は上記にとどまった。回答率を上げることが次年度以降の課題である。

1. 校訓の理解
校訓に対する理解度は、74.7%(72.7%)とほぼ昨年同様であったが、3年前からに比べて、20ポイントほど上昇している。生徒のケースと同じく、校訓を強調する機会を増やしている成果である。
2. 教育目標
教育目標に対する理解度は、43.3%(50.3%)と、昨年より7ポイントほど低下したが、保護者の方が生徒に比して、教育目標に対する理解度が高い。教育目標が3年間の生徒の指導・育成に大きな影響があることを積極的に提示して、今後も理解度の上昇を進める。
3. 教育課程
89.8%(82.1%)と9割の保護者が、教育課程に満足していると感じている。これは2年前と比して、10ポイント近くの上昇である。年々、教育課程に対する満足度が高まっている。
4. 学習機会の多様性
学校の学習機会の用意に対する満足度は、72.8%(80.1%)と低下した。

学校の提供している学習機会に対する満足度は、生徒の方が15ポイントほど高い。

5. 進路指導の計画性

83.1%(83.9%)の保護者が、昨年同様8割以上の保護者が進路指導を積極的に実施していると考えている。

6. 規範意識

97.0%(91.8%)の保護者が生徒は規範意識を持って学校生活を送っていると考えており、生徒同様極めて高い値である。

7. 学校行事・部活動の有用性

92.5%(85.6%)の保護者が、学校行事や部活の有用性を感じている。
生徒同様、今年度上昇した。

8. 防災教育・安全教育

保護者の84.7%(85.6%)は、学校が積極的に行っていると感じており。ほぼ昨年同様である。

9. 相談体制

72.6%(63.4%)の保護者が教育相談体制に対して肯定的であり、昨年度より10ポイント上昇した。

10. 情報発信

保護者の67.7%(73.8%)、7割近くが学校は積極的に情報発信していると考えている。昨年度と比べ6ポイント低下し、保護者の満足度は生徒に比して7ポイントほど低い。

<地域アンケート>

調布市多摩川自治会にアンケートを依頼して分析した。一昨年度から学校案内を配付してアンケートをお願いしている。 回答数18

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 校訓のわかりやすさ | 50%(61.5%) |
| 2. 教育目標のふさわしさ | 94.4%(90.6%) |
| 3. 学習指導のふさわしさ | 88.9%(77.8%) |
| 4. 進路指導の必要性 | 77.8%(94.3%) |
| 5. 規範意識指導の必要性 | 94.4%(94.4%) |
| 6. 特別活動の必要性 | 88.9%(98.1%) |
| 7. 防災・安全教育の必要性 | 88.9%(94.4%) |
| 8. 相談機能の必要性 | 88.9%(83.0) |
| 9. 情報発信 | 72.2%(83.0%) |
| 10. 生徒のための時間消費 | 66.7%(89.6%) |

校訓のわかりやすさについては、「力行」が日常的に使われている言葉ではないためか、肯定回答は5割にとどまった。「全力で臨む」という意味ではあるが、学校開設当時の思いもあるので、しっかりと説明して理解を深めたい。地域との連携をどう図っていくかを含めて、本校の取り組みを広く広報できるような工夫をさらに進める。

<教員アンケート> 回収38

学習指導の工夫については、昨年度と同じく全員が取り組んでいると答えている。

生活指導が27ポイント、校訓の指導が21ポイント上昇した。学校行事・部活動の有用性についても、生徒や保護者同様上昇し、20ポイントの上昇であった。

また、ライフ・ワークバランスについても、20ポイント近くの上昇となり、8割近くがライフ・ワークバランスが実現できていると回答している。

1. 学校経営計画に基づく行動	97.4%(89.2%)
2. 校訓の指導	94.7%(73.0%)
3. 学習指導の工夫	100.0%(100.0%)
4. 進路指導の計画性	97.4%(86.5%)
5. 生活指導（規範意識等）	94.7%(67.6%)
6. 学校行事・部活動	97.4%(78.4%)
7. 防災教育・安全教育	94.7%(94.7%)
8. 相談機能	89.5%(81.1%)
9. 情報発信	86.8%(81.1%)
10. ライフ・ワークバランス実現への取組	78.9%(59.5%)